ほうこん
題字・清水英夫

GALAC・9月号・付録
2019年9月6日発行（毎月1回6日発行）
昭和43年3月8日第三種郵便物許可
〒160−0022
東京都新宿区新宿5−10−14　中村ビル2F
NPO法人放送批評懇談会
TEL（03）5379-5521／FAX（03）5379-5510
ホームページ　http://www.houkon.jp/
Eメール　kondankai@houkon.jp
編集・藤田真文

放懇ホームページリニューアルオープン！

―7月理事会報告―

2019年7月30日、7月理事会が開催された。

1．委員会活動報告

◇出版編集委員会　鈴木副委員長

・7月22日に委員会を開催した。

・10月号特集は「テレビと文学」。情報としての文学、ドラマとしての文学という両側面から取り上げる。また、単発企画として参院選報道を分析する。

・11月号は「フォーマット」特集を予定している。

◇選奨事業委員会

〈テレビ部門〉出田委員長

・6月26日に月評会を開催した。月間賞には、よるドラ「腐女子、うっかりゲイに告る。」（NHK）、NNNドキュメント'19「裁判員裁判10年～死刑判決はなぜ覆るのか～」（読売テレビ放送）、ETV特集「バリバイ一家の願い～〝クルド難民〟家族の12年～」（NHK）、火曜ドラマ「わたし、定時で帰ります。」（TBS）の4本を選んだ。

・前回理事会で「入賞作品の映像を一部HPでも視聴できるようにしたい」と提案した件について、第57回上期の応募要項に、入賞の際にはHPに動画を掲載する旨を明記し、入賞決定後、別途正式に許諾の連絡をすることとした。

〈ラジオ部門〉五井委員長

・7月23日に定例会を開催し「なりきりラジオ」をテーマに、「貴族の時間」（STVラジオ）、「響鳴乱舞！仙台 DATE-MON」（エフエム仙台）を聴取し議論した。

・7月7日にTBSセミナー室にて「ギャラクシー賞入賞作品を聴いて、制作者と語り合う会　vol・26」を開催した。出席者は一般42名、学生18名。若干の赤字にはなったが盛況であった。

〈CM部門〉服部委員長

・7月24日に定例会を開催し、36本のCMを視聴した。映画『天気の子』7社コラボCMが注目を浴びたほか、東京ガス「電気代にうる星やつら　登場篇」、KINTO「定額なる一族シリーズ」、資生堂　エリクシールルフレ「つや玉とKEANA篇」などのCMが好評だった。

〈報道活動部門〉事務局

・報告は特になし。

◇企画事業委員会　桜井委員長

・7月18日に委員会を開催した。次回セミナーは9月開催予定だったが、講演者を再検討する必要が生じたため、10月開催予定に延期することとした。

◇広報委員会　滝野委員長

・7月1日に委員会を開催。同日に新ホームページを公開した。

・リニューアルオープンの目玉コンテンツとして4日に個人賞の独占インタビュー動画を掲載。その後順次各部門委員長講評、大賞受

賞者インタビューなどを公開した。
・HPのアクセス数はリニューアル当初は300～400人／1日だったが、最近は200人／1日となっているため、アクセス数増加を促すためのコンテンツを検討したい。ページビューは「ギャラクシー賞」、とくに「月間賞」にアクセス数が集中している。端末別ではモバイル55%、PC40%、タブレット5%とモバイルが半数を占めており、スマホ対応したことに効果を感じている。

2．その他

①正会員入会・退会の件
入会　並木浩一さん
退会　内藤圭介さん
②ギャラクシー賞データベースの件
現在のギャラクシー賞データベースを管理しているクラウドサービスの9月閉鎖に伴い、現HP制作会社に業務を移管することとした。新システム構築の費用を承認した。
③60周年プロジェクトの件
・常務理事会で検討を開始する。
・上滝理事より「新しい時代の放送批評の組織論を検討すべきではないか」という提案があった。
④事務局員の件
試用期間を経て社員を1名採用予定。
⑤その他
・第15回通常総会議事録が完成。7月30日に維持会員社長、窓口に送付し、HPにもアップした。正会員には「GALAC」9月号に同梱する。

今後の理事会スケジュール
9月26日（木）、10月31日（木）

【出席】
音好宏、橋本隆、藤田真文、水島宏明、稗田政憲、出田幸彦、五井千鶴子、服部千恵子、桜井聖子、滝野俊一、岩根彰子、茅原良平、上滝徹也、鈴木健司、鈴木嘉一、桧山珠美、中島好登

会議記録

「7月」……
1日　広報委員会
18日　企画事業委員会
22日　出版編集委員会
23日　（選奨）ラジオ定例部会
24日　（選奨）CM定例部会
29日　（選奨）テレビ月評会
30日　理事会・総会

新入正会員自己紹介

テレビを「研究」したい

松山秀明

関西大学社会学部でテレビ文化論を教えています。今年で着任3年目になります。

大学では工学部建築学科に入学しましたが、映画を研究しようとメディア論を学べる大学院に進学しました。そこで本会の常務理事である丹羽美之先生（東京大学）に師事し、「テレビ」を研究することの面白さを知りました。それまでテレビが研究の対象になるなど、思いもよりませんでした。以来、もっとテレビを研究したいと、「テレビと東京」というテーマで博士論文を執筆しました。

現在、大学で教えるゼミのテーマは「テレビジョンの社会学」。テレビ離れと言われていますが、まだまだテレビに関心がある学生は多く、日々彼らと議論をしながら、テレビ文化について考えています。

本会の設立時から続く「放送を学問し、批評する」という流れ。その末端に加えさせていただきたく、入会いたしました。